

## 温室効果ガス削減計画

### 1 事業の概要

(1) 事業所の名称

イオン三原店

(2) 事業所の所在地

広島県三原市城町2-13-1

(3) 業種

5611:百貨店・総合スーパー

(4) 事業所位置図  
別紙のとおり

### 2 計画の期間

本計画の期間は、令和2年度を基準年度とし、令和3年度から令和5年度までの3年間とする。

### 3 計画の基本的な方向

「事業を通じて地域社会へ貢献する」基本理念のもと 環境や社会に配慮した新たなライフスタイルを店舗を拠点に発信してゆきます

1、脱炭素の取組み強化

①2030年度までに店舗で排出するCO2を総量で2010年度対比50%削減目標としてエネルギー使用量の削減に取り組む。②

省エネ・再エネの取組強化

2、廃プラの推進

①全館レジ袋辞退率90%を目標に推進する。

②プラスチック製資材の非プラスチック資材への切り替えを推進する。

3、植樹活動の推進

①新入社員・新人店長植樹の推進

4、店舗内設備の計画に基づき点検・整備の実行により、効率的運用を目指す。

5、廃棄物のリサイクルを推進して従業員の意識を変える(食用廃油、魚アラ、ペットボトル、不要什器等)

#### 4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

##### 【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	
	基準年度	直近年度目標
	令和2 (2020) 年度	令和5 (2023) 年度
二酸化炭素	2,611	2,533

##### 【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	
	基準年度	直近年度
	令和2年度	令和5年度
二酸化炭素		

##### 【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	
	基準年度	直近年度
	令和2年度	令和5年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

#### 5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

	基準年度	削減目標	目標年度
--	------	------	------

温室効果ガスの種類	(令和2(2020)年度)	削減目標		(令和5(2023)年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2	2,611	3.0	78	2,533
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計	2,611	3.0	78	2,533
温室効果ガス みなし排出量		-		2,533
目標設定の考え方	令和2年度実績2611tを基準として、令和3年以降毎年1%ずつ削減を目標に省エネ化投資と運用改善を進めて行く。			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100      削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO<sub>2</sub>)，原単位数(kg等)，削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和2年度)			原単位 削減目標 (d)	目標年度 (令和5年度)		
	排出量 (a)	原単位数 (b)	原単位 (c)		排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2				#VALUE!			
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-		0.0	-	-	

目標設定の考え方

※ 削減率(d) =  $\{(c) - (g)\} / (c) \times 100$     原単位(c) = (a)/(b)    原単位見込(g) = (e)/(f)

## 6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	電気使用量の削減	前年の1%削減（毎年）	①電気使用量の目標管理をグラフ化し従業員に見える化し節電意識を高める。 ②省エネ投資拡大（LED等施設の省エネ機器への入替や冷ケースの入替）
2	廃プラの推進	レジ袋持参率90%目標	①レジ回りに月度持参率のポスター等で、お客様の協力を求める。 ②マイバックの品揃え拡大による販売強化。
3	トップバリュの拡販	トップバリュ商品の販売額平均20%以上目標	①新製品の投入 ②省包装紙・パッケージの簡素化を進めたトップバリュの価値を再アピール。
4	食品ロスの削減	廃棄売変の削減	①客数予測に基づく製造・発注計画の制度アップ。 ②タイムリーな見切り実施。

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

### ○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	買物袋持参率のアップ	買物袋2025年度完全廃止	マイバック持参率100%目指し販売強化。
2	店頭リサイクルの推進	継続実施	お客様が購入された、食品トレイ、ペットボトル、牛乳パック、空き缶等回収。
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

## 7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

### (1) 推進・点検体制

- ①電気使用量の削減・・・毎月の目標値の明確化と実績の見える化、対策をPDCAサイクルで実施。
- ②レジ袋削減率90%・・・毎月の目標の明確化と実績の見える化、対策を計画的に実施(PDCAサイクル)
- ③トップバリュの拡販・・・毎月の販売目標と実績の明確化、販売促進策の実施。不振商品対策をPDCAサイクルで実施・改善する。

### (2) 実施状況の点検・評価

上記①、②、③の点検・評価は、毎月の点検と四半期毎の点検・見直し、目標値の見直しを実施して評価する。

### (3) 計画書等の公表

途中経過・進捗状況を従業員で共有出来る様に「見える化」を実施する。